

二酸化窒素の測定結果（平成26年度）

大気中の窒素酸化物は、物の燃焼に伴い空気中の窒素が酸化されてできるものと、燃料中に含まれている窒素分が酸化されてできるものがあります。発生源としては、固定発生源である工場・事業場のばい煙発生施設及び移動発生源である自動車などがあります。

平成26年度に、二酸化窒素について16測定局（自動車排出ガス測定局4局を含む。）で測定した結果は下表のとおりであり、平成25年度と比較すると、横ばい傾向にあります。

年平均値は、土岐自動車排出ガス測定局の0.019ppmが最も高く、一般環境測定局においては、岐阜南部測定局の0.012ppmが最も高い状況にありました。

なお、長期的評価に基づく環境基準はすべての測定局で達成しました。

地域	測定局名	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		1時間値の最高値 (ppm)	日平均値の年間98%値 (ppm)	長期的評価の適否 適○否×	平成25年度	
					日	%	日	%				年平均値 (ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	362	8,630	0.009	0	0.0	0	0.0	0.048	0.017	○	0.009	○
	岐阜南部	362	8,634	0.012	0	0.0	0	0.0	0.052	0.023	○	0.013	○
	岐阜北部	363	8,669	0.006	0	0.0	0	0.0	0.035	0.012	○	0.007	○
	各務原	364	8,663	0.008	0	0.0	0	0.0	0.044	0.015	○	0.008	○
	平均			0.009								0.009	
西濃・羽島	羽島	365	8,664	0.011	0	0.0	0	0.0	0.050	0.022	○	0.012	○
	大垣中央	364	8,658	0.011	0	0.0	0	0.0	0.047	0.021	○	0.011	○
	大垣南部	349	8,336	0.008	0	0.0	0	0.0	0.045	0.015	○	0.011	○
	平均			0.010								0.011	
可茂	美濃加茂	360	8,636	0.006	0	0.0	0	0.0	0.039	0.013	○	0.007	○
東濃西部	笠原	362	8,624	0.009	0	0.0	0	0.0	0.045	0.018	○	0.009	○
恵那・中津川	中津川	364	8,663	0.011	0	0.0	0	0.0	0.047	0.020	○	0.011	○
飛騨	高山	355	8,484	0.008	0	0.0	0	0.0	0.048	0.023	○	0.010	○
乗鞍		355	8,562	0.001	0	0.0	0	0.0	0.011	0.002	非適用	0.001	非適用
県平均				0.008								0.010	
岐阜明德自排		363	8,651	0.011	0	0.0	0	0.0	0.049	0.018	○	0.012	○
大垣自排		361	8,643	0.013	0	0.0	0	0.0	0.049	0.024	○	0.014	○
可児自排		364	8,669	0.014	0	0.0	0	0.0	0.054	0.023	○	0.014	○
土岐自排		364	8,658	0.019	0	0.0	1	0.3	0.071	0.031	○	0.020	○

備考) 1 県環境管理課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間6,000時間以上あり、日平均値の年間98%値が0.04ppm~0.06ppmゾーン内もしくはゾーン以下であることを示す。

3 県平均に、乗鞍測定局、自動車排出ガス測定局は含まない。